

小学生シンガポール生活体験レポート

シンガポールとニュージールランドでの貴重な体験を、子どもたちが作文にまとめました。そのうちの一篇を紹介します。

言葉の壁は「あぐい」でカバーできました



フェンシャン小学校でホストファミリーと

フェンシャン小学校の様子

英比小学校六年 深谷 友紀

フェンシャン小学校は日本の小学校と比べていくつかの違いがありました。

一つ目は学校の中に食堂があったことです。勉強の時間以外はいつでも食えることができるようになっていました。日本の小学校は給食があり、決まった時間にみんなで同じものを食べていたのでその違いに驚きました。これはいろいろな宗教の人たちがいるため、食べてはいけないものがあるからだそうです。

二つ目は校舎と運動場です。学校の面積はだいたい阿久比町の小学校と同じくらいだけれど、校舎は大きく、運動場が狭かったです。また運動場の地面はコンクリートでできていました。ぼくたちの学校は運動場が土なのでとても珍しく感じました。三つ目は児童の数です。阿久比町の小学校のはるかに上をいく千人以上の児童がいるので、学年によって午前と午後に分けられています。午前は六年、五年、四年、三年で、午後は二年と一年になっていました。半日しか授業がないためうらやましく思いました。

四つ目は学校の廊下が外に面しているということ。風通しが良く、年中暑いシンガポールに合っていると思いましたが、雨や台風の時にはぬれてしまいました。

このように違う点もありましたが、英比小学校にあるピオトープやウサギ小屋もあり、日本と似ている点もいくつかありました。

二日間という短い間の見学でしたが、日本との共通点や違いをたくさん発見できて、とても良い体験になりました。



ホームステイ先

ホームステイ・レポート

草木小学校六年 坂野 千尋

二泊三日、心待ちにしていた生活が始まりました。いざ一人になると心配になり、ホームステイの家に着くまで、とても長い時間感じました。けれどお別れの時には「あつ」という間違ったなあと思いました。

私がお世話になった家は四大家族です。お部屋は五つでどの部屋もシャワーが付いていてビックリしました。お父さんは、私に気を使ってティッシュを持って来てくれたり、シャワーの使い方を教えてくれたりするやさしい方でした。

お母さんは、「元気ですか?」と、日本語で話しかけてくれたり、一緒にトランプをしてくれたりする楽しい人でした。

シャンディは、チキンとサラダとちよつと思議な味のスープを作っ

てくれたお料理上手なおばさんです。そしていつも一緒にいてくれたメイは一歳年下ですが、とても明るく話が上手で頼りになる子でした。一日目の夜、寝る時に日本が恋しくなりました。そんな元気がなかった私を見てパパが国際電話をかけてくれました。日本にいるお父さんとお母さんの声を聞いて、安心して眠れました。

次の日の朝は、自分から「グッドモーニング」と元気にあいさつできました。思ったことを知っている英語と手ぶりや持っていたメモ帳で絵を描いて話をしました。みんなが私に分かる英語を使って話しかけてくれるので、「英語がこわい」のイメージが「英語って使えれば、楽しいな」に変わりました。

私は、メイと二人で手をつないでいる絵をプレゼントしました。メイと私は話が途切れない仲良しになれて本当にうれしかったです。言葉は違っても、心が通じることが分かってうれしいホームステイでした。

小学生海外派遣事業

参加者(敬称略)

- 岡戸 達哉 (東部小学校 6年)
- 小森 光華 (東部小学校 6年)
- 神原 真樹 (英比小学校 6年)
- 新美 将太郎 (英比小学校 6年)
- 深谷 友紀 (英比小学校 6年)
- 竹内 俊貴 (草木小学校 6年)
- 坂野 千尋 (草木小学校 6年)
- 大村 紗穂 (南部小学校 6年)
- 神原 亜美 (南部小学校 6年)
- 安居 直輝 (南部小学校 6年)